

透析の汚染針のリキャップ件数を減らそう

武蔵野赤十字病院 透析センター「THE BLOOD HIT!」 リーダー 大槻好栄

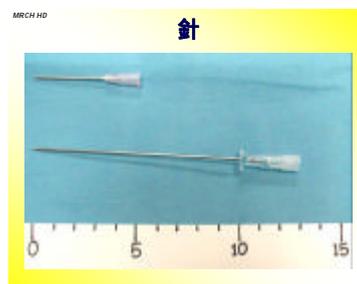
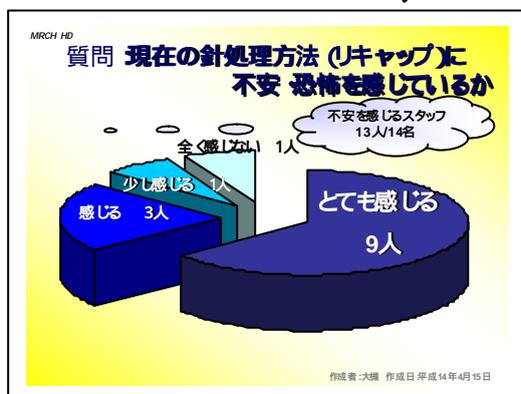
メンバー 田中真紀子 小島千枝 岡田由美 鈴木修 透析センター一同

1. はじめに

2年前に業務改善に失敗したテーマですが、QCメンバーが一丸となり再起をかけて取り組みました。

2. テーマ選定理由

透析治療では1人の患者様に約14cmの針を最低2本使用しています。それ以外でも針・はり・ハリと使用済みの針が山となっています。針に囲まれている怖い環境ですが、もっと怖いリキャップ行為が日常化しています。その為、スタッフは不安と恐怖の中での仕事となっており、この何十年来続いているリキャップという習慣を改善したくQC活動に取り組むことにしました。



3. 活動計画

MRCH HD 活動計画表

項目/期間	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	役割分担
テーマ選定							全員
現状把握							田中 岡田
目標設定							大槻 小島
要因解析							大槻 小島
対策立案		計画			田中 岡田
対策実施		実施		全員
効果確認						小島 岡田
標準化							全員

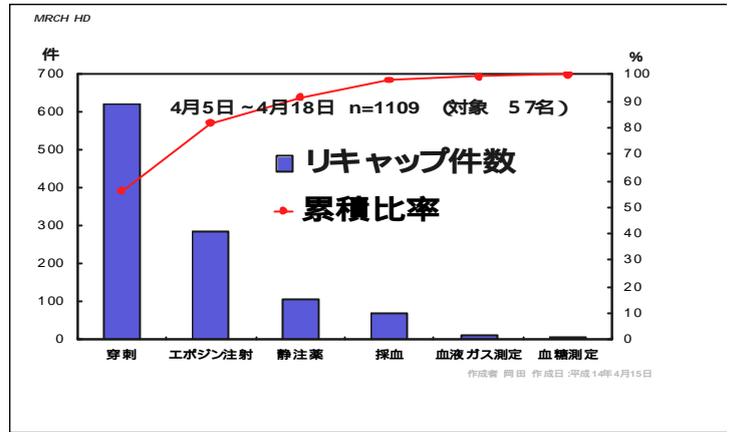
作成者: 大槻 作成日: 平成14年3月6日

サークルチーム名 THE] BLOOD HIT (2002年1月結成)					
リーダー氏名	大槻好栄(看護師)	所属部門	看護・管理・医療技術・事務・その他	月当たりの会合日数	1~2回
リーダー経験数	年6ヵ月			平均会合時間	60分
メンバー数	計14名 うち男5名 うち女9名	活動内容	モラル・コスト・質・能率・CS・安全	平均会合出席率	75%
				テーマ歴(このテーマで)	1件目

4. 現状把握

現状把握でわかったこと

1. 不安を感じているスタッフ
: 全スタッフの93%
2. リキャップ件数: 1109回/2週間
3. リキャップせず, 針捨て用器に持っていくと
所要時間: 2分~30分
距離: 4m ~ 15m



4. リキャップしている理由

針の剥き出しによる恐怖感

剥き出しにより他の人に刺さる可能性 危険行為に対する危機感がない

針捨て場が1ヵ所 皆が行っている

5. 以前の業務改善で失敗した理由:

容器の口が狭い 容器の容量が少ない

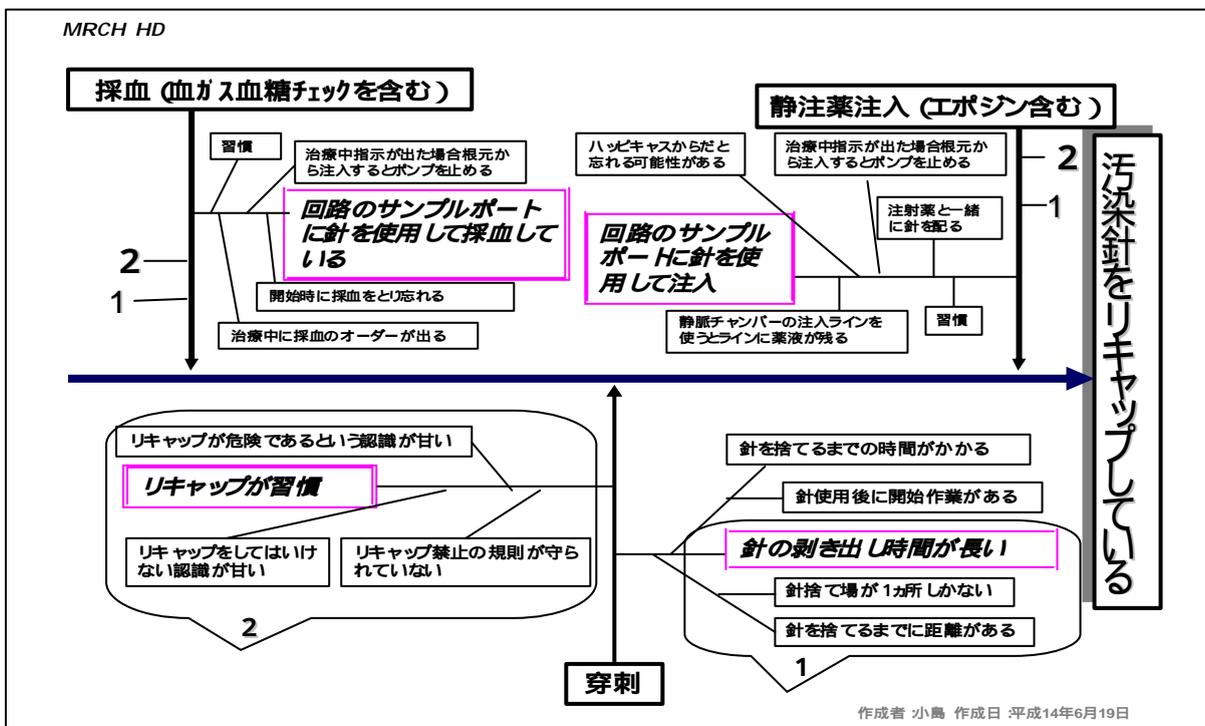
ヒビテン容器の不足 説明不足によるスタッフの協力不足

5. 目標設定

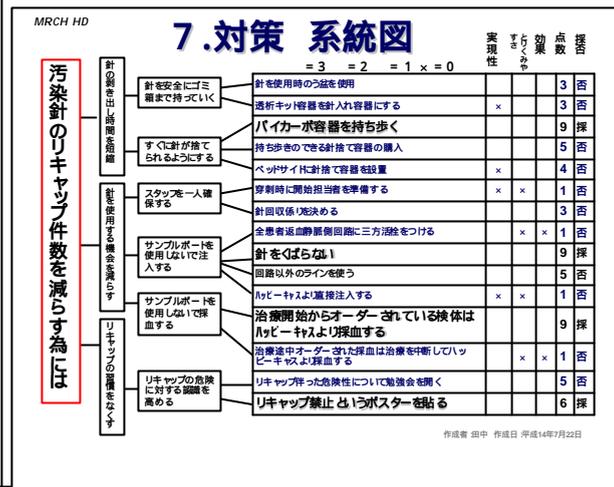
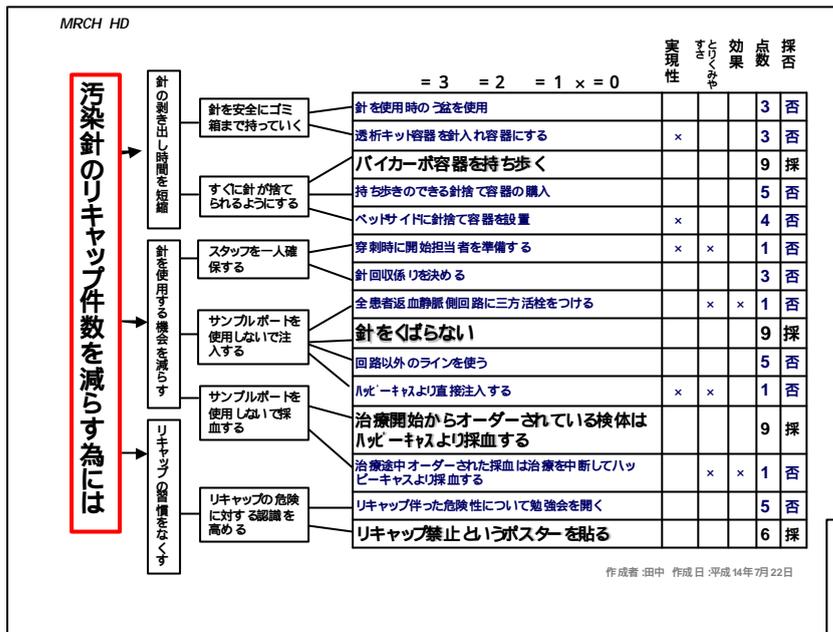
汚染針のリキャップ件数を8月17日までに30%に減らそう!!

目標設定理由 根強いリキャップの習慣を考慮。2年前の失敗の克服

6. 要因解析



7. 対策 系統図

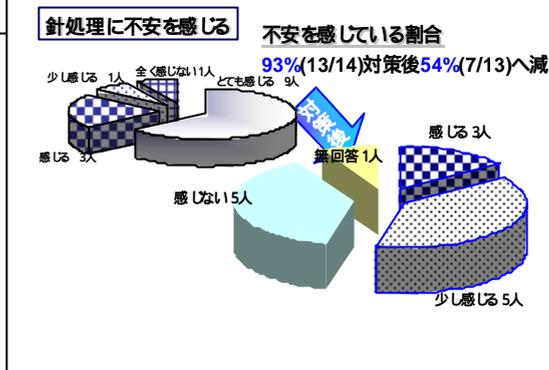


8. 対策の立案と実施

MRCH HD

なぜ	何を	誰が	いつ	どこで	どうする
すぐに針を捨てる	バイカーボ容器の設定箇所	QCリーダー・サブリーダー	8月1日	フロア	南側4カ所・北側3カ所に増設する
	バイカーボの容器	針使用者	針使用後	ベッドサイド	持ち歩き使用針をすぐに捨てる
針の使用回数を減らす	エボジン1500・3000単位の針	北南担当者	薬液を配る時	ベッドサイド	配らない
	静注液	施行者(返血者・搬注者)	静注時	ベッドサイド	針を使用せず薬液が残らないように静脈チャネルから注入する
汚染針に触れる機会を減らす	透析開始前の採血・血液ガス	採血者 施行者	採血時	ベッドサイド	針を使用せずハッピーキャスから採血する
リキャップの危険の認識を高める	リキャップ禁止のポスター	小島	8月1日	水廻り室・カンフル室・ム休室	貼る

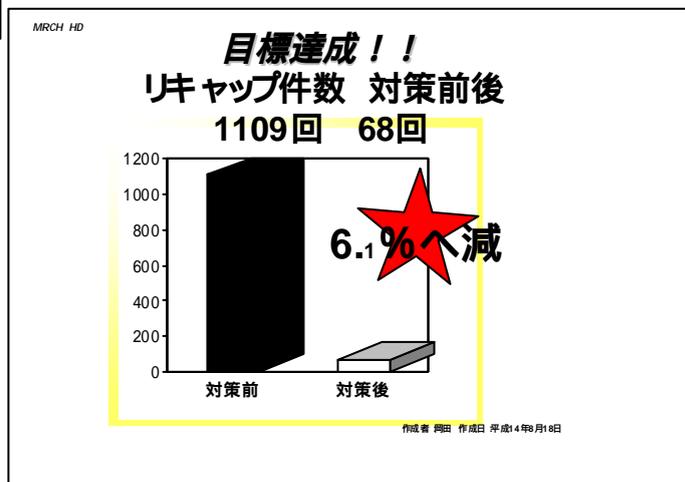
作成者: 小島 作成日: 平成14年7月29日



	対策前	対策後
移動距離	4m ~ 15m	なし
移動時間	2分 ~ 30分	なし

波及効果

1. コミュニケーションが増えた
2. 業務改善する自信がついた
3. 開始時の不安が無くなった



10. 標準化と管理の定着

作成者：大槻。作成日：平成14年8月20日

	何を	何故	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	透析開始前からオーガー されている検体	汚染した針に触れる機会を減らす	採血施行者	採血時	患者の元で	針を使わずハッピーカスから採取
	針捨てバイカーボ容器	針をすぐ処理する	針使用者	針使用后	使用場所	持っていく
	ボツソ1500・3000 単位の針	針の使用回数を減らす	薬を配る時	薬を配る時	患者の元	配らない
	静注薬	針の使用回数を減らす	静脈注射時	静脈注射時	患者の元	針を使わず静チャンパーから注入する
管理	針捨て用器	有効に使用する	土曜日	土曜日	針捨て置き場	点検する(針の量・赤いテープ)
	ポスターが破れていないか	意識が高まる	QCメンバー	毎週月曜日	水処理室・ナースステーション・休憩室	点検をする
教育	リキャップの現状	より良い針の処理方法を考える	QCメンバー	相談会	カンファレンスルーム	話し合いをもつ資料を配る

11. 反省と今後の課題

透析開始後の採血など、今回解決できないリキャップ場面への対策が今後の課題である。

このQC活動をきっかけに業務の安全性を高める活動を進めていきたい。

作成者：大槻。作成日：平成14年8月20日

	良かった点	悪かった点	悪い点に対する課題
テーマの選定	習慣化された禁止行為に着手 一度失敗した問題の解決		
現状把握	スタッフ全員が協力	入院患者数によりリキャップ件数に変動が出る状況で期間を考慮すると期間が短かった	調査期間を長くする
目標設定	無理の無い目標設定		
要因解析	針の使用場面ごとに分け、解析が行いやすかった	時間がなかった	場面ごとの分類は熟練が必要
対策の立案と実施	針捨てに使用したバイカーボ容器は、今迄捨てていたものを使用したためコスト負担がない。業務に取り入れやすい対策	入院患者数により針の使用数に差が出る 認識によりスタッフの取り組みに差が出た	調査期間を長くする 実施前に全スタッフが共通認識できる十分な説明
効果の確認	スムーズに行えた 思った以上に効果があった		
標準化と定着	具体的内容だった	現時点での定着の確認は出来ない	

12. 今後の計画

1. 透析開始後の血液ガス測定用の採血など、今回解決できなかったリキャップ場面への対策が今後の課題である。

2. このQCサークル活動をきっかけに業務の安全性を高める活動を進めていきたい